

解説 08 中世ヨーロッパの民衆の生活を知る

【課題のねらい】

中世ヨーロッパ史上のある出来事の分析・検討を通じて、中世社会とくに民衆の生活への理解を深める。ひいてはこの作業全体を通じて、大学での歴史学の研究が、ある特定のテーマを深く掘り下げることが起点として、過去の一時代全体の理解を進めるものであることを知ってほしい。

【解説】

ヨーロッパ中世についての本を読んでいただきましたが、この本を通じ、ヨーロッパに限らず、歴史一般について、次のようなことを考えていただきたいと思っていました。

(1) 謎にみちた出来事は、私たちが生きる現代にも起こりますが、過去にももちろんいろいろな事がありました。過去の出来事を正しく理解するには、まず、その時代背景を良く知らなければなりません。この本の第一部では主にそのことを学ぶことができましたと思います。

(2) 本の第二部を読んでみましたか。ここで知ることができるのは、過去の出来事は現在の私たちに伝えられるまでの間に、様々にデフォルメ（変形）されることがあるという事です。しかし、デフォルメそのものも面白い研究対象です。ある出来事をその後の時代の人々がどのように感じ、理解し、伝えようとしたかが分かるからです。義務教育が普及した現代と違い、中世には全く教育を受ける機会もなく、字も読めない人々が人口の大部分を占めていました。この本を読むと、今日でいう「伝説」や「メルヘン」は、こうした人々が生活の中で感じた思いが核となって作られていったということが分かります。さらに、少数の高い教育を受けた「知識人」が、そんな「民衆」の伝説をどうとらえ、どう関わってゆこうとしたかも面白い問題だと思います。

本の内容を、決められた字数の範囲内で要約する仕事は、自分が理解した事柄をまとめ整理する練習になります。